

おおいせき 20. 太田遺跡

所在地：大野市太田

調査原因：中部縦貫自動車道建設事業

調査期間：平成 21 年 10 月 1 日～12 月 28 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：2,500 m²

時代：弥生時代・奈良時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 太田遺跡は大野市西北部を流れる赤根川左岸に位置しています。中部縦貫自動車道建設予定地となり、今回初めて本格的な発掘調査が行われました。平成 19 年度から調査が行われている小矢戸旗鉾遺跡とは県道をはさんで隣接する関係にあり、小矢戸旗鉾遺跡で確認された奈良・平安時代を中心とする集落跡が引き続き展開することが予想されました。

平成 21 年度は全調査予定地 4,500 m²のうち、西辺にあたる 1,100 m²について調査が終了しました。平成 22 年 6 月から行っている調査で、残りの調査が完了する予定です。

遺構 調査区の南半を中心として奈良時代頃と考えられる掘立柱建物跡 4 棟が確認されました。全形がわかる 3 棟はいずれも小規模で正方形に近い桁行二間・梁行二間の構造で、うち 2 棟は内部にも柱をもつ総柱建物です。また、建物跡の周辺では畝溝状に平行して走る多条の溝群が検出されました。掘立柱建物が建てられた場所に溝群が見られるあり方は小矢戸旗鉾遺跡と共通しています。

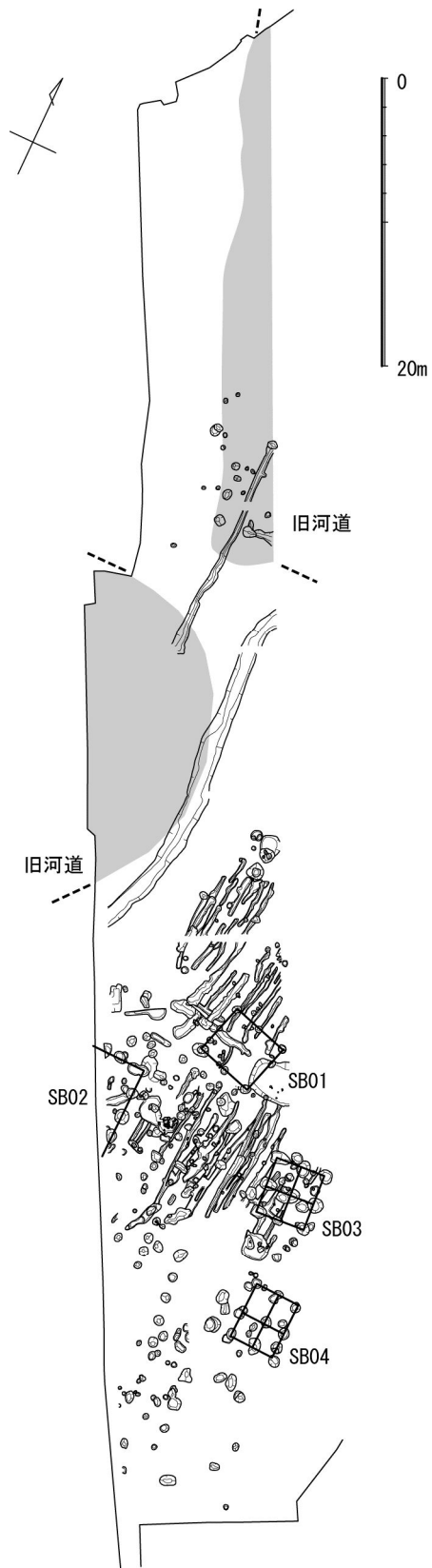
調査区の北端と中央では弥生時代から奈良・平安時代頃にかけての旧河道が 2 箇所確認されました。

遺物 掘立柱建物跡周辺の土坑や溝からは奈良時代の須恵器や土師器が出土しました。小矢戸旗鉾遺跡で多数確認されている墨書土器が太田遺跡でも 1 点確認できました。旧河道では上層から奈良時代頃の土器が、下層からは弥生時代中期から後期の土器が少量出土しています。

まとめ 今回の調査の結果、小矢戸旗鉾遺跡で確認された集落が太田遺跡においても存在することが確認できました。現在行っている今年度の調査では引き続き掘立柱建物などの集落跡が確認されることが予想されます。

小矢戸旗鉾遺跡は石製巡方（革帯の部品）や権状錘（はかりのおもり）、多量の墨書土器の出土などから、役所のような性格をもつ遺跡であったことがわかっています。今後、太田遺跡の詳細が明らかになることで、両遺跡間の細かい時期や性格のちがいが検討できるでしょう。

(杉山拓己)



調査区全体図



掘立柱建物跡群 (SB01~04)



掘立柱建物跡 (SB01)



掘立柱建物跡 (SB04)